

みどり 水土里ウォークイン「牟呂用水」



～水土里ネット牟呂用水の概要～

牟呂用水は、明治20年豊川河口（かこう）を干拓（かんたく）してできた「神野新田」のための用水として造られました。牟呂用水頭首工から5.3kmまでは、豊川右岸（うがん）の農地に水を送る「牟呂用水」と共用（きょうよう）しており、牟呂用水幹線（かんせん）の延長は23kmです。

現在は、神野新田だけでなく新城市八名井、宝飯郡一宮町金沢、豊橋市西茂町などの農地に水を送り、また工業用水・水道用水としても使われています。

むろ まつばらとうしゅこう
牟呂松原頭首工



現在の頭首工は、平成8年に改築され農業用水、水道用水、工業用水として使用されています。農業用水は、新城市・一宮町・豊川市・小坂井町・豊橋市の田圃などで使用されこの地域の豊かな実りに役立てられています。また水道用水は、頭首工下流約13km地点の森岡分水工から豊橋浄水場に送られ市の一般家庭へ、工業用水は豊橋市・田原市の給水区域に供給されています。

むろようすいじんじや
牟呂用水神社



牟呂用水は、明治20年に水路開削工事に着手し、同27年完成しました。
当時の用水工事では、たび重なる水害や苦勞など数多の困難がありましたが、発起人一同の努力と幾度の結果完成しました。
この先覚者の遺徳を永遠に保存するため、牟呂用水神社に霊を祭ることとし現在でも毎年春に礼祭をとり行っています。

や な いちく ようすいきじょう
八名井地区揚水機場



この揚水機場は平成2年に完成し、新城市八名井の24.3haの田圃に、揚水機場からのパイプラインにより用水をいつでも送れる大切な役割をはたしています。田圃では、家庭の水道と同様いつでもひねれば使用できるようになり、農作業は大変便利になりました。

やないのうきょうしゅうらくはいすいしよりしせつ
八名井農業集落排水処理施設



この処理施設は、八名井集落の人口390人の家から出るトイレ、風呂、台所のよごれた水を道路にうつめられた管で集め、バクテリアなどの微生物によごれを食べさせ水をきれいにし、川に返す役目をしています。
このため近くにホテルが多く見られるようになりました。

あと り むろようすい お た
水土里ネット牟呂用水の生い立ち

- | | |
|---------------------|--|
| 明治20年 4月
～7月 | 置茂村、金沢村、八名井村に約2里の水路開削（かいさく）を行い、置茂（かも）用水完成。 |
| 明治20年11月
～21年 6月 | 毛利祥久（もうりよしひさ）、毛利新田（後の神野新田）のために、用水路の幅及び延長の工事を行い、牟呂用水が完成。 |
| 明治24年10月 | 濃尾大地震発生。 |
| 明治25年 9月 | 暴風雨、津波により毛利新田壊滅（かいめつ）。豊川堰堤（えんてい）、宇利川洗堰堤防（あらいぜきていぼう）、大被害を受ける。 |
| 明治26年 4月 | 新田の所有者が毛利祥久から神野金之助（かみのきんのすけ）に変わる。 |
| 明治27年 3月
～12月 | 用水路修復工事を行い牟呂用水を完成させる。 |
| 明治31年 8月 | 第1号樋門（ひもん）を服部長七の発明による人造石でつくる。 |
| 明治35年 | 牟呂、花田、吉田方村の3か村に分水。 |
| 昭和27年 | 牟呂用水普通水利組合を組織。 |
| 昭和38年 | 土地改良法施行により牟呂用水土地改良区に組織変更。 |
| 昭和42年 | 牟呂用水と松原用水の頭首工を統合する工事が開始。 |
| 平成 3年10月
～ 8年 8月 | 水路改修も含め、牟呂松原用水頭首工が完成する。 |
| 平成11年 2月
～ | 頭首工の老朽化が著しく、豊川用水施設緊急整備事業により全面改築される。 |
| | 安定的な取水と合理的な水管理を図る目的で豊川用水二期事業が開始される。 |